

【大学専用循環バス】

地球温暖化などの環境問題への啓発を目的に、通学用に大学専用循環バスを運行しています。燃料の一部に学生食堂の廃油を再生した、バイオディーゼル燃料を利用しています。運行時間は講義の開始・終了時間に合わせ、在学生は無料で利用できます。またバスのボディのグラフィックは在学生がデザインしました。



【オープンアトリエでの卒業／修了研究・制作展の開催】

2006年度は開学15周年を契機に松本学長をはじめとする新体制のもと、本学のポテンシャルを最大限に発揮できうる展示・企画を展開。これまで会場を分散していた展示を、このキャンパスで一堂に開催しました。美術館大学構想の展開とも連携し、学生達が学んだ場所も含めて観て頂くというオープンアトリエの発想から、学内の展示環境などのインフラも再整備を実施しました。



【美術館大学構想と連動した作品の買上げ制度と学内展示】

優秀と認めた卒業制作作品や研究を大学で買上げ、保存し、学内の各所で展示する事業を展開しています。卒業／修了に向けての作品制作、研究活動を行う学生のモチベーション喚起だけではなく、在学生が良い刺激を受け続けられる修学環境を提供しています。



キャンパス散策（東北芸術工科大学）



TOHOKU UNIVERSITY
OF ART & DESIGN

東北芸術工科大学は、1992年、東北の地・山形に「芸術」と「デザイン」の大学として誕生しました。本学は「東北芸術工科大学設立の宣言」に掲げる高い理想と大きな志をもち、日々教育・研究活動を推進しています。この困難を極める時代に、日本文化の源流ともいえる東北の地に軸足を置き、芸術とデザインの力で、現代社会の抱える様々な課題を解決できる人材の育成を、使命としてとらえています。また姉妹校である京都造形芸術大学とともに、それぞれ「東北ルネサンス」「京都文藝復興」を旗印に、芸術文化運動を展開しています。

本学が掲げる「東北ルネサンス」というスローガンは、地域社会と共生しながら、地域の歴史や文化に育まれた精神と叡知を理解し、新しい世界観の創生へと結集させて次世代に手渡す、その決意でもあります。国際化が進み共生が叫ばれる現代においてこそ、見直されるべき日本人のアイデンティティーを探る手がかりが、地域性の中に秘められていると考えています。この本学の理念や思想は、「人類の良心による芸術と工学の運用で、社会に貢献する人材を輩出する」という教育目的に引き継がれ、芸術学部とデザイン工学部、2学部の教育プログラムや研究活動へと展開しています。

東北芸術工科大学 四つの柱 東北ルネサンスの具現化に向けて

「東北文化研究センター」の展開と「東北学」

大学の理念を具現化する中核的な研究機関です。縄文の精神を基層とする東北の歴史や文化を掘り起こし、新しい世界観を確立することを目指しています。

「美術館大学構想」への取り組み

「大学そのものを美術館に」を標榜し、企画展やシンポジウム、アーティスト・イン・レジデンス、ワークショップの開催など、芸術文化の発信拠点となっています。

こどもとお母さんのための「こども芸術大学」

「こどもこそ未来」を旗印とした母と子のための新しい学びの場です。芸術を通じた人間教育、母親教育を目指し、現在50組の親子が学んでいます。

「全国高等学校デザイン選手権大会」の実践

13回目を迎えた本大会が実践内容を評価され、2006年度「グッドデザイン賞 新領域デザイン部門」を受賞しました。



【現代GPに採択された周辺地域との取組】

文部科学省「平成18年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に、地域活動をネットワーク化し広げていく取組み「芸術とデザインによる廃校活用と地域教育」が採択。平成15年度から始まった山形県朝日町の住民と役場、東北芸術工科大学の教職員や在学生、卒業生が協力し、四つの廃校小学校を舞台に芸術・自然・文科をテーマとして「おしえて・まなぶ」交流学习活動「あたらしい学校」をはじめとして、数々の活動を学生と共に展開しています。



【学内ギャラリーの学生への積極的な解放】

キャンパス内には本館の3カ所の他、図書館、研究棟などいくつかのギャラリースペースを有し、学生が積極的に利用でき、他学科・コースの作品でも気軽に鑑賞しあえる環境を整えています。また隣接する山形県の公園内にある悠創館ギャラリーとも連携しています。



【大学直営の学生食堂】

充実した4年間のキャンパスライフを送る上で不可欠なのが、おいしくバランスの取れた食事です。一人暮らしで乱れがちな食生活を、「食育」への意識を喚起しながら、大学直営の学生食堂がしっかりとサポートしています。低価格で、朝・昼・晩の食事に併せたメニューをそれぞれ提供しています。

